

沼田町一貫・連携教育公開研究大会 視察報告書



1 期 日 平成27年10月28日(水)

2 参加者 旭川市立神居中学校

教諭 岸 和宏 (小中連携教育コーディネーター)

教諭 藤井 宏二 (小中連携教育推進委員)

3 タイムテーブル

9:00～ 9:50

【公開授業1】

小中合同授業・音楽

10:00～10:45 (50)

【公開授業2】

I 算数 (小6年)

II 数学 (中2年)

III 外国語活動 (小5年)

IV 生活 (幼・小1年)

11:00～12:10

開会行事・全体会

13:20～15:00

【記念講演会】

京都産業大学 西川 信廣 教授

15:00～15:10

閉会式

4 沼田町の一貫・連携教育について

沼田町では、沼田町総合教育計画に示された基本理念「沼田町ならではの希望に満ちた豊かな学びの実現」を目指し、学校、家庭、地域が連携を深めながら、多様な教育課題の解決に向け、様々な取組を進めている。

中でも最重要施策として取り組んでいるのが“幼小中一貫・連携教育”である。

子ども達の成長過程は分断しているものではなく、教育については幼稚園から中学校卒業までの10年間（沼田町の幼稚園は1年）を見通した一連の流れの中で展開されるべきものとの考えから、沼田町教育委員会として“幼小中一貫・連携教育”を学校教育の目指すべき姿として位置付け、平成25年に幼稚園、小・中学校（1園2校）を研究指定校として指定し、これまで調査・研究と実践を重ねている。

ここに至るまでには、試行錯誤の連続であり取組の難しさを痛感しているとしつつも、教職員や保護者の前向きな姿勢により、学校相互の乗り入れによる合同授業等の交流や

家庭での生活習慣の改善対策も動き出している。

5 「沼田町一貫・連携教育」推進体制について

子どもたちの実態や町民の願いを受け、「一貫・連携教育推進協議会」において取り組むべき方向性を確認し、「一貫・連携教育推進委員会」でその事業の概要を検討



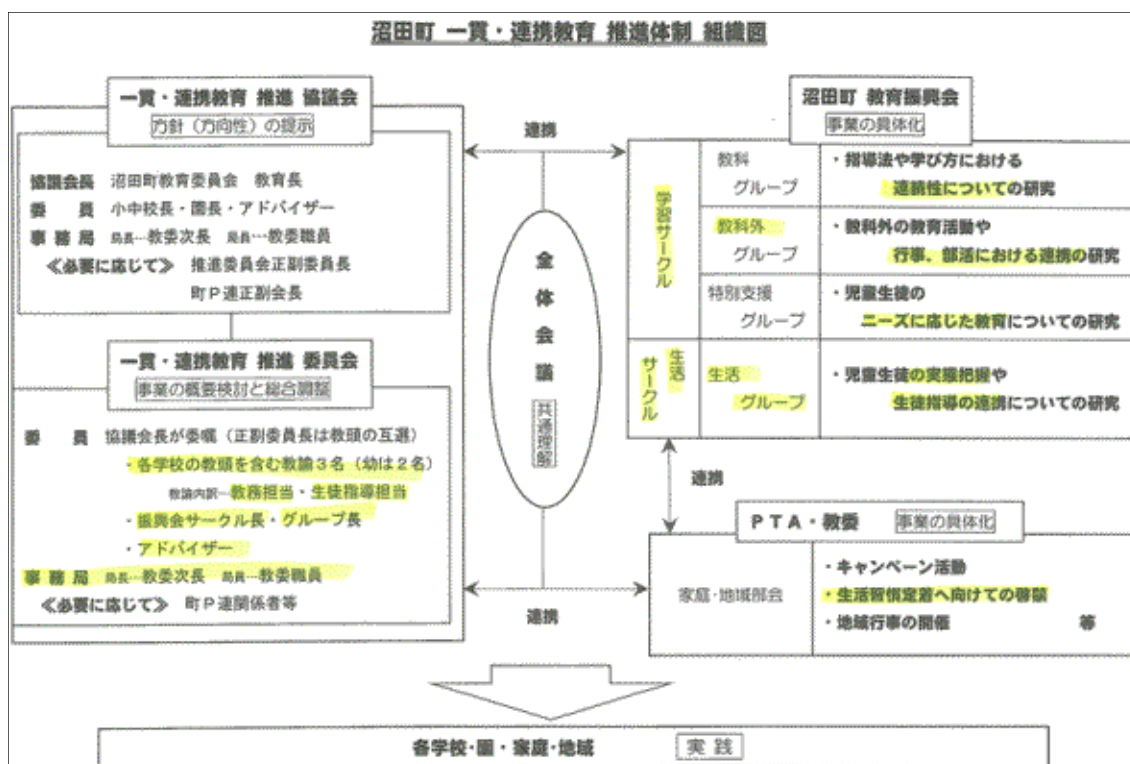
「沼田町教育振興会」と「家庭・地域部会」において、「一貫・連携教育推進協議会」「一貫・連携教育推進委員会」の意向をもとに連携しながら、具体的な事業計画を策定



「各学校園」「地域」「家庭」において、「沼田町教育振興会」と「家庭・地域部会」で策定した事業計画に基づいて実践



町民、教育関係者総意の下で教育活動が進められるよう、関係者全員による「全体会議」の開催や「連携通信」「沼田っ子通信」の発行を行い、意見交流、並びに成果や課題を確認しながら、計画・実践・評価・改善のサイクルに基づき教育活動を推進



6 各グループの活動について

(1) 教科グループ

① 研究テーマ 「指導法や学び方における連続性についての研究」

② 活動内容

サークル結成, 研究大会, プレ研究授業授業者決定, プレ研究授業反省 (沼田小3年算数 単元名『わり算』, 沼田中1年数学 単元名『文字と式』)

沼田町一貫・連携教育研究大会 兼 沼田町教育振興会研究大会

研究大会反省，研究のまとめ・次年度への展望

③ 成果と課題

幼小中10年間を4つのステージに分け，それぞれのステージの特徴を押さえて，「沼田町学習ガイド」と「基本的な学習内容」を作成することにより，より明確に一貫性のある学習訓練や学習指導が可能となっている。

また，10年間を見通した学習内容の系統図（各教科）を作成し，系統性を意識した指導に役立てている。

また，小中の授業交流・授業研究を通して，小学校教師の細やかな指導や中学校教師の専門性など相互理解を深めることができている。

今後は，全教科にわたって実践を積み重ね，沼田の児童生徒の実態に即した一貫・連携教育を作り上げていきたいと考えている。

(2) 教科外グループ

① 研究テーマ 教科外の教育活動や行事・部活における連携の研究

② 活動内容

サークル結成，年間活動計画の検討，参観授業についての交流

スクールバンドと吹奏楽部の活動に関する交流

夜高あんどん祭り「跳ね踊り・小中合同練習りの実施

「沼田町開拓120年記念式典」において，児童生徒全員による合唱を実施

「沼中1日体験入学」について検討

③ 成果と課題

小中合同でいろいろな活動に取り組むことにより，学校間の段差を小さくすることができたと考えている。

今後は，幼稚園も含めた連携を深めることが課題であると考えている。

(3) 特別支援教育グループ

① 研修テーマ 児童生徒のニーズに応じた教育についての研究

② 活動内容

・小中交流行事

芋ほり&レクリエーション（中学校行事） 収穫祭「カレーライス作り」（中学校行事） クリスマス会（小学校行事） ホップステップジャンプパーティー（小学校行事）

・空知障害児教育研究協議会 公開授業

・サークル講演会 『中学校における通級指導教室の実際』

・サークル研修 『通常学級におけるユニバーサルデザインの授業について』

③ 成果と課題

小中合同学習・行事に取り組むことで，教師が児童生徒の特性や課題を共有することができ，活動内容の工夫改善が進められている。

今後も一貫・連携教育を進める中で、特別支援学級に在籍している児童生徒に対するより効果的な支援・指導法の在り方を探っていきたいと考えている。

(4) 生活グループ

① 研究テーマ 児童生徒の実態把握や生徒指導の連携についての研究

② 活動内容

実態把握のため幼小中の園児児童生徒に対し、アンケートを実施

アンケート結果を基に実態の把握と分析

『携帯電話・スマートフォン等によるネット犯罪被害』についての講話

『ケータイ安全教室』の実施 4年生以上の児童生徒・保護者・教職員対象

『沼田町、幼小中生徒指導ハンドブック』（場面別実践例集）の作成

③ 成果と課題

メール、インターネットの利用についての児童生徒アンケートを実施した結果、テレビ、ゲーム、ネット等に割かれる時間の増加が学習時間、睡眠時間の不足につながっているという実態が明らかになった。そのため、ネットの正しい利用、LINEによるいじめやトラブル防止についての講演会などを行い、今のところ目立ったトラブルはない状況である。

今後は、家庭・地域部会とも連携し、生活リズムの見直しという観点からも、ネットトラブル未然防止に向けた議論を深めていく必要があると考えている。

沼田町の子どもは自尊意識が低い傾向が見られている。そのため、全国学力・学習状況調査の質問紙から「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の2項目に絞り、幼小中の全園児児童生徒を対象にアンケート調査を実施したところ、両項目ともに心配するような結果は表れなかったとしている。

現在、生活グループでは、自尊意識を高めるための対策・指導の在り方について検討し、実践を進めている。

(5) 家庭・地域部会

① 部会テーマ 生活習慣の改善をめざして

② 活動内容

家庭・地域部会の立ち上げ

(協力員10名 幼小中各1名・社会教育委員長・部会長推薦者・教育委員会2名)

沼田つ子の課題把握 ～全国学力・学習状況調査結果から～

小・中学校共に、全教科で全道平均を下回る低迷状態が続いている。遅寝、遅起き、朝ごはん抜きの傾向が進み、夜型の生活の低年齢化が進んでいる。宿題はするが、進んで予習・復習等、自学自習する力が定着していない。読書時間が少ない。小学生はテレビ・ゲーム等の時間は減ったが、インターネットやメールは増えた。中学生はテレビ・ゲーム等の時間全てで増え、時間も長い。(前年度比)将来の夢や希望が、全道平均を大きく下回る。

沼田町一貫・連携教育推進協議会は、これらの実態を町P連役員に公開し、危機感を共有するとともに、家庭地域が連携して沼田つ子の生活習慣の改善に取り組む

必要性を訴え、賛同を得て、「家庭・地域部会」を立ち上げた。

地道な生活習慣改善の取り組み

「子どもに待ったなし」熱い！家庭・地域部会 方針（目的）

- ① 生活習慣改善・定着に向けての方策を策定する。
- ② 地域行事開催に向けての取り組みの方策を策定する。
- ③ 沼田町園児児童生徒の健全育成に必要な事項の推進。

『時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！（北海道教育委員会）』の日課表を基本とし、沼田町として取り組む内容を付加して保護者に配布。

③ 成果と課題～生活習慣改善の兆しと学力の向上～

平成27年度実施の全国学力・学習状況調査では、小・中学校共に、全教科（国、数、理）で全国平均を超え、関係者一同、取組の手応えを感じることができた。

課題としては、生活習慣改善に向けての更なる保護者の意識改善、携帯電話・スマホ等の普及による家庭内外の新たな問題への対応などが挙げられている。

7 公開授業について

(1) 公開授業 1

小中合同授業・音楽

- ① 単元名 豊かに響かせよう
教材 「この星に生まれて」
- ② 指導者 竹原 靖人（沼田中）
下野 里紗（沼田小）



(2) 公開授業 2

I 算数（小6年）

- ① 単元名 「拡大図と縮図」
- ② 指導者 小黒 俊浩（沼田小）



II 数学（中2年）

- ① 単元名 「平行と合同」
- ② 指導者 T1小野寺三佳子（沼田中）
T2計良 育広（沼田中）



Ⅲ 外国語活動（小5年）

- ① 単元名 Lesson8
教材 「I study Japanese.」
- ② 指導者 T1木村 一典（沼田小）
T2祐川 義人（沼田中）
T3リンチ・デヴィット・アラン



Ⅳ 生活（幼・小1年）

- ① 単元名 「あきとともにだちになろう」
- ② 指導者 T1伊藤 佐知子
T2臼井 彩夏
T3東峰 美佳



（文責：岸 和宏）

8 記念講演会

演題「学校と教師を変える小中一貫教育」

講師 西川信廣（にしかわ のぶひろ）氏



京都産業大学文学部教授

1982年大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了（教育制度学専攻）

中央教育審議会「小中一貫連携教育の制度化等に関する特別部会委員」

京都市学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会委員

文部科学省「コミュニティ・スクールの推進に関する調査研究協力者会議」委員

大阪府教育行政評価審議会会長 など

(1) 概要

① 国レベルの動き

ア H26年 6月 小中一貫教育等の推進状況に関する全国調査実施

イ H26年12月 中教審小中一貫教育特別部会答申提出

ウ H27年 6月 学校教育法改正 → 義務教育学校法（法規定）

② 全国調査の概要

<実施状況>

小中一貫教育を実施中：211市町村（約1割）

小中一貫教育を実施予定又は検討中：166市町村（約2割）

国及び他市町村の状況を注視している市町村：450市町村（約3割）

小中一貫教育の取組件数：1130件（小学校2284校，中学校1140校）

【小中連携教育】

小・中学校が、互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

【小中一貫教育】

小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

③ 調査から見る小中一貫教育の総括（抜粋）

- ・大きな成果が認められる：約1割
- ・成果が認められる：約8割

<学習指導上の成果>

- ・学習意欲の向上，学習習慣の定着 他

<学習指導上の成果>

- ・中1ギャップの緩和 他

<教職員に与えた効果>

- ・教科指導力・生徒指導力の向上 他

<課題>

- ・9年間の系統性に配慮した指導計画作成
- ・小・中学校合同の行事の内容設定
- ・小・中学校合同の研修時間の確保
- ・小・中学校間の打合せの時間の確保
- ・小・中学校の交流を図る際の移動時間・手段の確保
- ・教職員の負担の軽減，負担感・多忙間の解消，負担の不均衡 他
- ・経過年数が多い取組の方が多く成果を認識している。
- ・一人の校長がマネジメントしている取組の方が多く成果を認識している。
- ・6-3制の中で6-3とは異なる学年段階の区切りをしている取組(4-3-2制)の方が多くの成果を認識している。
- ・施設分離型よりは施設隣接型，施設隣接型より施設一体型の方が，より多くの成果を認識している。

→小中一貫教育は、学力向上，教育病理の減少に大きな成果を上げている。課題は、教師側の問題が大部分である。

④ 9年間を通じた教育課程とは

- ・既存の教科の小中の独自性と連続性を踏まえた一貫性のある指導を構築する。
- ・既存の教科外に「新教科」を設定する。Ex：読解科，表現科…
- ・義務教育学校になると特例が認められやすい。

→目指す子ども像の共有が不可欠

「豊かな心，健やかな体」的なスローガンではなく，具体的目標が必要である。

⑤ 子ども像の共有について

Ex：京都市立東山開晴館小中学校の取組

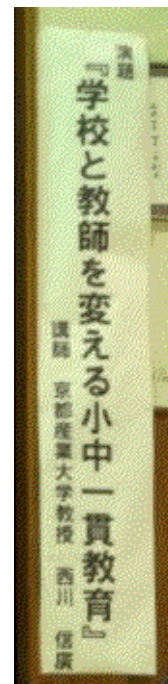
9年生の2月 個人研究発表

6年生 グループによる卒業研究発表

3～9年生 東山探究（総合的な学習の時間を活用）

1～7年生 読解科

→アクティブ・ラーニングも育てたい子ども像が共有されなければ意味がない。



⑥ 次期学習指導要領改訂に向けて

- ・「何を知っているか」ではなく「何ができるか」が大切
→パフォーマンス評価，ルーブリック，逆向き設計の授業

⑦ 沼田町の小・中学校が成すべきこと

- ・非常に意義深く，成果が見られた公開授業の継続
- ・小中一貫教育の目指すものは子ども像を共有した授業づくり
- ・教職員の意識改革（意識は制度を変えなければ変わらない）
- ・未就学児の小学校登校
- ・6年生の中学登校の一般化
- ・小中教職員の仲間づくり

(2) 講演の感想

先進的な内容であり，より大きな視点で教育を見直すことにつながる講話を聞くことができた。関西地方の方言で話され，次から次へと話題が展開していき，多くの情報をつかみきれないほどの濃い内容であった。

その中でも，個人的にヒントになったキーワードをいくつか記載する。

「6年生の中学校登校」では，2・3回では本当の成果につながらないようだが，何度かでも中学生と過ごすことは，新しい成果が得られる可能性を感じた。

「教職員の意識を変えるには，制度を変えなければならない」では，今の仕事量に追加していくのはパンク状態なので，一定の仕組みを変えることで取り組みやすく，連携の成果に可能性を感じる。他国の事例を挙げながら，「脱教育鎖国」と言われていた。

「小中間の研修・打合せ時間の確保」では，打合せの時間を例えば「毎月第3月曜日に設定，他会議なし，部活動なし等」で実践していくことの必要性が語られていた。

「管理職の異動年限が早すぎる」では，「子ども像の共有」も含めて，本格的に連携・一貫をしていくためには，責任をもって見届けていく制度改革の有効性をあげていた。

このようなキーワードを参考にしても，現在の環境には限界があるものの，新しいシステムの構築には可能性を感じた。

沼田町をはじめ，道内各地からの教職員はもちろん，教育行政関係者が集まる大きな研究大会・講演会であった。教職員が今できることに取り組むとともに，より大きな視点で教育を見つめ直して取り組むことが，未来の子どもたちの可能性を伸ばすことにつながると実感した。より多方面の方々にも，このような講演を受講できる機会があればよいと感じた。

（文責：藤井 宏二）

9 所感

沼田町では，子どもたちの実態や町民の願いを行政の重要課題として，「一貫・連携教育推進協議会」において取り組むべき方向性を確認し，「各学校」「地域」「家庭」が一体となって事業を推進していることに注目したい。

金平町長は，開会式のご挨拶や研究紀要の中で，以下のように総括されている。平成8年当時，教育長として，町内の児童生徒の学習離れや生活の乱れなどの問題に直

面し、約20年をかけて学校改革に取り組んできた。初めの10年は先生方と問題意識を共有することや、小学校と中学校の文化の違いを乗り越えることが難しく、改革は遅々として進まなかった。しかし、「一貫・連携教育推進委員会」を組織し、教育関係者総意の下で教育活動が進められるよう、関係者全員による「全体会議」や「連携通信」「沼田っ子通信」の発行等を行う中で、徐々に一貫・連携教育が浸透してきた。現在では、改革が軌道に乗り、全国学力・学習状況調査においても、全国平均を上回る結果が出るようになり、取り組んできたことが間違っていなかったと実感している。行政がきっかけをつくり、沼田町民が一体となって教育改革に取り組んでいる様子を目の当たりにし、大きな刺激を受けた。

今後とも、先行実践を参考にし、神居地区においてもより一層教職員の連携を深め、指導方法や児童生徒の交流の工夫を通して、『小・中学校の円滑な接続による「生きる力」の育成』を目指したい。

(文責：岸 和宏)